

有田川左岸の河口、日尾丘陵の東北端標高8.2mに位置している。島嶼古墳であったが、近世末期日尾掘干拓造成の折り古墳の封土は削り取られ石室の天井が露出してしまった。

昭和46年4月市教育委員会は当古墳の保存を目的として発掘調査を実施した。その結果は次の通りである。

石室は主軸の方向を南西に取り、幅約1.9m、奥行約2.1mで正方形に近い形状を示し南西に向って開口している。四壁は、朱塗でそれぞれ厚さ80cmほどの板状の砂岩を腰岩とし、その上位には小板石を小口積みとしている。床面と天井の比高は1.9mである。石室の向って左側に主軸と平行して屍床が設けられている。羨道は約2.5m幅1.1～1.4mで敷石が認められる。石室床面は羨道床面より約50cm低く築造されている。遺物は、石室内から鉄斧、鉄鏃、砥石、鉄刀、鉄剣、鉄鉾が出土している。

当古墳は、古墳時代中期末約1500年前の島嶼古墳で海人族の首長の墓と推定され、当地方の古代文化研究上極めて重要である。

